2022 年 11 月 1 日

「ＳＤＧｓ」を視野に入れた事業再構築（その３）

はじめに

経済同友会の夏季セミナーにおけるサントリー新浪社長の「45 歳定年制」発言が炎上したとヤフーニュースで報じられていましたが、その真意が誤解されて受け取られていたようです。

しかし、これからは雇用環境の変化に応じてキャリアの見直しは不可欠であり、新浪氏の発言は決して時代と逆行したものではないということです。

その理由の 1 つとして「人生１００年時代」の到来があげられるというのです。つまり「人生８０年時代」のライフステージでは

０歳～２０歳まで教育、２１歳～６０歳まで仕事、６１歳～８０歳まで老後

ということでしたが、「人生１００年時代」のライフステージでは

０歳～２０歳まで教育、２１歳から８０歳まで仕事、８１歳から１００歳まで老後

と位置付けられるわけです。

具体的には、２０歳で就職した場合、４０歳頃まで、しっかりキャリアを積んで４１歳以降６０歳頃までは、自身のキャリアの再構築とステップアップに努めながら２～３の会社でキャリアを磨き、61 歳頃からは個人事業主として老後まで活躍し続けるイメージです。

これからの時代、企業には事業の再構築が求められていますが、個人もキャリアの再構築を考えなければならないということなのです。

○　事業再構築のために企業がやるべき 3 つのこと

長年勤めた会社を突然辞めるのには、それなりの覚悟が必要です。そのために企業は従業員にマルチキャリアを考えさせ、身に着けさせる責任があるというのです。

その責任とは日常における「啓蒙」「仕組みづくり」「リスキリング」の 3 つだそうです。

１　第１に「啓蒙」ですが、特に企業の再構築の過渡期では、「会社都合のリストラだ」と、誤解されたり不信感を抱かれないために定期的に勉強会を開くなど、丁寧な啓蒙活動が必要だということです。

２　第 2 に「仕組みづくり」です。例えば、副業や兼業を承認し、推奨する制度を設けるなど、スムーズにマルチキャリアの道を歩めるような仕組みを作るということ。

場合によっては、身に付けたキャリアによって、退職後、自社との事業コラボに良好な関係をもたらすことも期待されています。

３　第３に「リスキリング」です。つまり、学び直しということです。IT リテラシー（IT の分野に関する知識や理解能力）が低くては起業や独立はもちろんのこと副業や兼業の道を選ぶことも困難ということです。

（　経営コラムニスト　横山信弘　）

○　リスキリングの積極的な取り組み

SDGs を視野に入れつつ、日本経済の生産性を高めるためにはリスキリングの重要性を理解する必要があります。それを成し遂げられるか否かは、仕事へのモチベーションが高く、自発的にスキルアップを考える人がどれだけ増えていくかにかかっているわけです。

そうした観点から言うと、「最も生産性が低いのは、民間企業ではなく、公務員や政治の世界かもしれません？」と揶揄するジャーナリストが後を絶ちません。

リスキングについては、今年に入ってから、政府が５年間で１兆円の予算を計上しています。これに対して政府の高官は「学び直しを定着させて、職場が変わったら賃金が上がるシステムをつくっていきたい」と語っています。

したがって、我々も当然、この制度を有効に活用していくべきなのです。国の予算で「学び直し」ができてスキルアップに繋げていけるわけですから、活用しない手はありませんね。

以　　上